外国語科

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00066575

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

外国語科

石川　理恵
中橋　弘高
田中　里美
研究協力者　滝沢　雄一（金沢大学）

１．Society5.0 に向けた教育を進めるに当たって

本校の外国語科では，学習指導要領に示されている教科の目標のうち「コミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる」ことに重点をおいて授業を進めている。他者とのコミュニケーションを通して「見方・考え方」を豊かなものにすることで，学校で学ぶ内容が生徒自らの生活や社会とが主体的に結び付けられ，主体的・対話的で深い学びが実現されるためである。

昨年度，外国語科においては，本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための 10 の資質・能力のうち，「デザイン思考」「対話する力」「論理的思考」「イノベーターのマインドセット」「多様性の尊重」の資質・能力の育成を図った。今年度は，「イノベーターのマインドセット」「多様性の尊重」を生みだす場面を意識しつつ，特に「デザイン思考」「対話する力」「論理的思考」の三つを全学年共通で育成することを目指すこととした。これらの資質・能力をより効果的に育成するためには，実社会での課題解決を学習内容に取り入れた単元や題材を設定することが重要である。日常的な話題や社会的な話題などで実社会での課題解決をし，それを可能にする手立てを考える過程で，「デザイン思考」や「論理的思考」が，伝え合う中で「対話する力」が育まれる。これは，先述の教科の目標を実現するための重点と内容が重なっており，ねらいとする資質・能力を無理なく身に付けることができると言える。しかし，現状では，授業で実社会の具体的な諸課題について考える自然な場面を十分に設定できていたとはいえない。そのため，ねらいとなる資質・能力が十分に育成されるように，昨年度に引き続き今年度も，外国語科単独のプロジェクトを中心に，教科連携したプロジェクトについても，コミュニケーションの場面設定を工夫していくとともに，生徒が創造的に思考・判断・表現ができる場を意図的に授業に仕組んでいく。

２．資質・能力の育成に当たって

（１）教科等として育成する資質・能力について

外国語科で育成を目指す「デザイン思考」「対話する力」「論理的思考」は，本校では次のように定義づけている。「デザイン思考」は，問題解決の思考法の一つ。対象とする問題を解決するために，認識されていない内なる課題を見いだし，それを解決するための最適な手立てを考えて行く思考法である。「対話する力」は，考えを広めたり，深めたりするための対話をする力であり，その対象は，他者，自分自身，ものである。「論理的思考」は，根拠を定め，前提と結論が整合的（無矛盾）であるかを問い続ける思考法である。これらの資質・能力を，各学年のどの単元でどのような課題設定をすることで効果的に育むことができるかを検討した。

外国語科で育成するこれら３つの資質・能力は，１時間の授業や一つの単元だけでは身に付かず，体系的かつ継続的な指導が必要である。近年，外国語科では，三年間を通した即興での対話活動と発表活動を重視して取り組んでいる（詳細は，昨年度の紀要を参照）。

本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質能力と英語の資質・能力の実態を把握する

ため，年度当初（１年生は８月）に，全生徒を対象に，昨年度までの生徒の英語学習に対する意識について，５件法によるアンケート調査を実施した。結果を表１に示す。

表１　英語の学習アンケート調査（回答数：１年生 153 人　２年生 153 人　３年生 155 人）

質問項目	１年生８月	２年生５月	３年生４月
①　英語の授業で学習したことは将来役に立つ	97%（82%）	94%（82%）	96%（85%）
②　英語の授業でやり取り（対話）する力がついた	90%（40%）	88%（41%）	92%（52%）
③　英語の授業で発表する力がついた	88%（41%）	87%（30%）	90%（43%）
④　英語で新しいことに挑戦したり提案・企画したりしてみたい	88%	76%	75%

「（とても）そう思う」「まあまあそう思う」と答えた生徒の割合

（　）内：「（とても）そう思う」と答えた生徒の割合

質問項目①の結果より，英語の授業の学習内容は，実社会とつながっていると感じている生徒の割合が高いと考えられる。実際に，普段の授業の様子や作品などの成果物から，生徒が実社会との結びつきを意識して課題に取り組んでいる様子を見ることができる。質問項目②③は，「対話する力」に関連する質問である。生徒は話すこと［やり取り］［発表］の力が身についたことを実感しているといえる。これは，授業での対話活動や発表活動などで，生徒は日頃から英語で質問し合うことで互いに考えを広めたり深めたりしている。質問項目④は，本校が定める資質・能力の中で「デザイン思考」に関連している。本校の生徒は，互いの意見の違いを尊重し，自らの意見や考えを堂々と伝えることができる。しかし，昨年度同様，コロナ禍ということもあり，新しいことに挑戦したり提案・企画したりすることに難しさを感じる生徒が，上級生になるほど多い。これは，年齢が上がるほど，現実社会を冷静に捉えられるようになることと，すでにそのような提案を前年度に経験しているためだと推測できる。教科連携したプロジェクト等を実施することを通して，新しいことに挑戦することや，失敗しても前進する機会を作っていく。

（２）関連・連携を図った教科等について

１年「冬休み中に見てほしいオススメ映画を紹介しよう」

１年生の国語科で学習し，実践している「話の構成を工夫しよう」「情報を的確に聞き取る」力を活用することで，英語科でも育成している両者の力を高めることができると考えた。Lesson3 の単元末活動として行った「理想のロボット紹介」では，ロボットができることのみを述べる生徒が多かった。聞き手に伝えるべき情報を整え，話し手の思いが伝わるプロセスに重点的に取り組むことにした。

２年「オンライン旅行を計画している中学生におすすめの行き先を提案しよう」

県の機関が行ったアンケートの結果から顧客のニーズをつかみ，それを基にアイディアを創出する学習活動である。その際に，創造デザイン科の授業で行う，３年生の数学科で学ぶ「標本調査」や「全数調査」の知識を活用し，論理的に思考し，旅行の企画を提案することにした。

３年「俳句の魅力をＴシャツで外国人にアピールしよう」

外国人が日本語のＴシャツを着ていることがあるが，中には首をかしげたくなるものもある。誰にとっても「かっこいい」と思えるＴシャツを生徒たちが作成して，外国人に日本文化の一つである俳句をアピールするプロジェクトを複数教科で考案した。まず国語科の「外国人に紹介したい俳句の世界」で紹介する俳句を選び，数学科の「標本調査」で留学生の実態を把握する。その後，美

術科の「T シャツ文字のデザイン」でデザインを考えて，実際に留学生を前に英語で発表することにした。

（３）成果と課題

第１学年の成果と課題

①成果

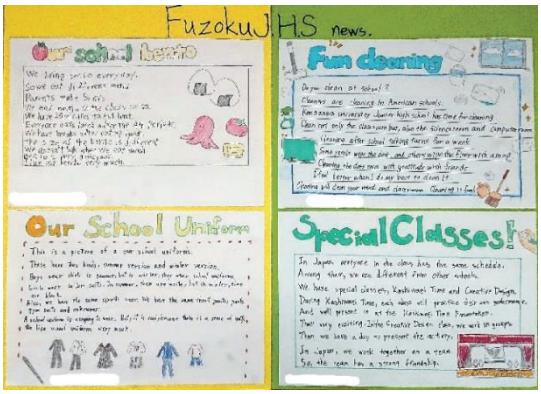
高めることができた『資質・能力』について

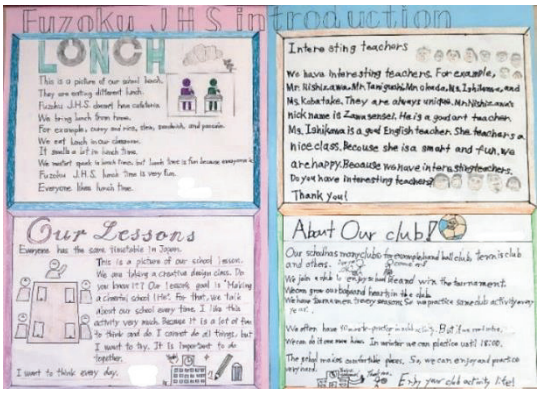
第１学年では，「冬休みに見てほしいオススメ映画紹介」を実施した。『資質・能力』として主に「デザイン思考」，「対話する力」を養うことができた。自分が選択した映画に対して聞き手や読み手に興味を持ってもらうために必要な情報を考え発信すること，つまり「デザイン思考」を意識することで，Society5.0 で期待される「経済発展」，「創造性」，そして「社会で活躍し，自分らしく生きていくため」に必要な力の育成にも繋げられた。「対話する力」では，先述にある目的意識のもと，話し手として必要な力だけでなく聞き手として「情報を的確に聞き取る力」を高めることができた。

実践事例に向けて

本活動は，Lesson5 にある，リスニング活動の発展的な活動として行ったが，Lesson5 の主な題材はアメリカでの中学校生活であり，主な文法事項として現在進行形を学習する。各パートでは，登場人物が紹介するアメリカの中学校活を読み取ったり，理由を考えたりしながら，本校での学校生活との違いへの興味，関心を高めた。単元末に，アメリカの中学生に向けた学校紹介ポスターを作成し，本校に興味を持ってもらうための題材や情報を伝える活動を取り入れた。タブレット端末を用いて，本校ならではの情報を調べ，Opening，Body，Closing の構成で相手に伝わりやすいまとめ方で書くことができた。また，描いた絵の状況説明文を加えさせることで，現在進行形と現在形の使用場面の理解を促すことができた。

図１





実践事例について

実践授業である映画紹介は，聞き手の共感を得るための創造力を養うことも達成できたと考える。これは，AI には備えられていない「人間が根源的にもつ力」[1)]とされており，Society5.0 において求められる人材像にもある。そこで，国語科『話の構成を工夫しよう』での既習事項を活用し，聞き手に伝わりやすい構成に整え，発表に臨むことにした。より充実した発表にするための手立てとして，「話の構成や順序」「制限時間内に収まる材料の取捨選択」「メモを活用した発表」「幾度の練習を経て，改善点を助言し合う活動」を参考にし，日々の授業の中で幾度も聞き手や読み手の立場でペアにアドバイスをし合える時間も確保した。国語科と連携したことに対し，生徒たちから以下のような感想を聞くことができた。

表２

質問１：ペアで練習・アドバイスし合う取り組みを通して，あなたの発表に変化はありましたか？

生徒たちからの答え：

・スピーチの練習ができて，互いにアドバイスできたので，徐々に良くなっていった。

・相手の上手な表現を参考にできた。

・原稿を読むだけで感情が伝わらないと指摘され，話し方を工夫した。

・画像を見てもらう時間を確保するようにした。発音の間違いを教えてもらえた。

・ペアの反応を見て，タイミング（伝わるスピード，声の大きさ）を考えるようになった。

質問２：国語科で学習した『話の構成を工夫しよう』を，どのように生かすことができましたか？

生徒たちからの答え：

・国語科の教科書内では「聞き手の興味を引く」ことが書かれており，それをもとにあらすじを簡単かつ興味を引くようにまとめた。

・内容をコンパクトにまとめることができました。５Ｗ１Ｈを意識できた。

・国語の授業でもスピーチをしたのでどのようにすればよいかがわかった。

・ただ「おもしろい」という感想で済ますことがなくなった。

・主観と客観の２つを出して，分かりやすく伝えた。

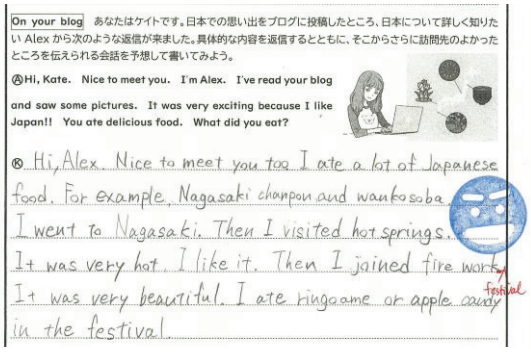
これらの感想から，生徒たちは伝えたい情報と伝えるべき情報のバランスを考え，聞き手を意識して発表に臨むことができたと考察する。このように意識させることができたのも，上記の取り組みを日々の授業で積み重ねていた結果だと言える。

発表後にはポスターでまとめ，学年で一冊の『オススメ映画 magazine』を作成した。読み手の興味を引く方法は何か，生徒たちは個人の能力や関心に合わせて，「人々の共感を生む」方法を考えることができていた。

発信力の育成

また，これらの活動を日々の授業の中に取り入れることによって，状況に応じて発信できる力も培われてきた。次の資料は 12 月に Lesson6 教科書本文の続きを考え書いたものである。相手が知りたいと思う情報の提供や，予想されるやりとりを考え，既習事項を活用することができた様子が見られた。

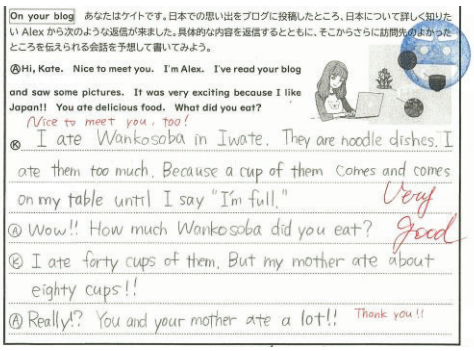
図２



On your blog　あなたはケイトです。日本での思い出をブログに投稿したところ、日本について詳しく知りたい Alex から次のような返信が来ました。具体的な内容を返信するとともに、そこからさらに訪問先のよかったところを伝えられる会話を予想して書いてみよう。

Ⓐ Hi, Kate.　Nice to meet you.　I'm Alex.　I've read your blog and saw some pictures.　It was very exciting because I like Japan!!　You ate delicious food.　What did you eat?

Ⓚ Hi, Alex. Nice to meet you too I ate a lot of Japanese food. For example, Nagasaki chanpon and wankosoba. I went to Nagasaki. Then I visited hot springs. It was very hot. I like it. Then I jained fire work festival. It was very beautiful. I ate kingoame or apple candy in the festival.



On your blog　あなたはケイトです。日本での思い出をブログに投稿したところ、日本について詳しく知りたい Alex から次のような返信が来ました。具体的な内容を返信するとともに、そこからさらに訪問先のよかったところを伝えられる会話を予想して書いてみよう。

Ⓐ Hi, Kate.　Nice to meet you.　I'm Alex.　I've read your blog and saw some pictures.　It was very exciting because I like Japan!!　You ate delicious food.　What did you eat?

Ⓚ Nice to meet you, too! I ate Wankosoba in Iwate. They are noodle dishes. I ate them too much. Because a cup of them Comes and comes on my table until I say "I'm full." Very

Ⓐ Wow!! How much Wankosoba did you eat? Good

Ⓚ I ate forty cups of them. But my mother ate about eighty cups!!

Ⓐ Really!? You and your mother ate a lot!! Thank you!!

②課題

教員側の課題として，他教科との連携と言っても，他教科に頼り切ってはいけないと感じた。あ

くまでも自分が担当する教科で育成できる力をさらに伸ばせていることを，生徒たちに実感させることができるように教員が取り組んでいかなければならない。

第２学年の成果と課題

①成果

２年生では，創造デザイン科（数学科）との関連・連携を図り，「ウィズコロナ時代の中，石川県への旅行を計画している中学生に『行ってみたい』と思ってもらえるように，おすすめの行き先について，事実や自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いて提案しよう。」を課題に授業実践を行った。感染症に配慮しつつ旅行を企画・提案する，実社会の具体的な課題について考える自然な場面を設定することによって，生徒が考えたくなる・話したくなる状況が生まれ，授業の流れの中で「対話する力」と「論理的思考」の２つの資質・能力の効果的な育成につながったと考える。

「対話する力」については，年度当初のアンケートにおいて「英語の授業でやり取り（対話）する力がついた」の質問に対し，「とても」「まあまあ」と回答した生徒が 88%であったが，授業後のアンケートでは 86%であり，２%の数値の低下が見られた。しかし，授業後のアンケートでは，以下のような記述が見られ（表３），他者や自分自身との対話を通して考えを広めたり，深めたりする姿勢がうかがえ，「対話する力」が一定程度，育成されたと考えられる。

表３　授業後に行ったアンケートの記述内容

・自分では good points だと思っていたことも，他人から見たら魅力ではなかったので改善した。他者から見てもらうのも大切だと感じた。
・文法のミス，スライドのレイアウトなどを客観的に見てもらえ，たくさんアドバイスをもらいました。

次に，「論理的思考」の育成について，その成果が見られた生徒の変容の例を挙げる。

生徒Ａは，本実践授業を通して，大きく変容を見せた生徒である。今年度６月に行ったライティングテストにおいて，登場人物の和也の英国旅行中の失敗談に関する英文を読み，相手の状況を踏まえた手紙を書く課題に取り組んだ。この時点では，too と two などの英文で触れられている聞き間違えには触れられておらず，自分の実態や習慣を述べる英文にとどまっている（図３）。しかし，英文を読んでその内容を踏まえてペアで対話したり，書いたりする活動を通して根拠を伴ったアイディア創出に継続的に取り組んできた結果，実践授業で作成したスライドでは，ウィズコロナ時代という状況や自然を愛するという相手のニーズに応じた内容が提案され，「論理的思考」が育成されたと考えられる（図４）。

Dear Kazuya,
I live in near the British Museum.
So, I often go to there.
I usually go to there on foot.
So, I don't take a London Bus to there.
But, I like both walk and London Bus.

図３　生徒Ａのライティング課題

図４　生徒Ａが作成したスライド

また，生徒Ｂは，英語の運用能力の高い生徒であるが，生徒Ａと同様に，変容を見せた生徒である。先述のライティングテストにおいて，登場人物の失敗に気を遣ったり，直接顔を合わせて話そうと促していたりするなど，前提となる相手の状況が十分に踏まえられた英文が書かれている（図５）。同じ過程を経て，実践授業で作成したスライドでは，日々学習で疲れを感じている相手に対し，ウィズコロナ時代という状況や週末にリラックスするのが好きであるという相手のニーズに応じた内容が提案されているだけでなく，希少性をアピールすることで，提案内容との間に十分な整合性が見られ，「論理的思考」が育成されたことが分かる（図６）。

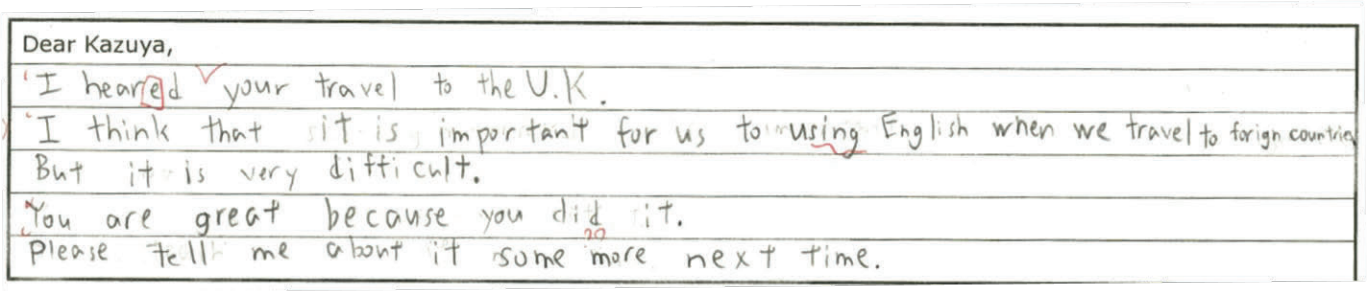

Dear Kazuya,
I heared your travel to the U.K.
I think that it is important for us to using English when we travel to forign countries
But it is very difficult.
You are great because you did it.
Please tell me about it some more next time.

図５　生徒Ｂのライティング課題

図６　生徒Ｂが作成したスライド

授業後に行ったアンケートでは「おすすめの行き先を発表する活動を通して，どのような力がついた／何を意識するようになったと思いますか」という質問を設け，生徒の意識調査を行った。以下のような記述が見られたことから（表４），提案を受ける相手やウィズコロナの状況に応じた内容を提案しようとする姿が見られ，「論理的思考」の育成につながったと考えられる。

表４　授業後に行ったアンケートの記述内容

・何のためにおすすめするのか，誰を対象としているのかを意識して取り組めた。
・物事を相手や場面に応じて紹介することができた。相手のニーズに合わせることは大切だと思う。
・コロナの中で行っても，比較的安心で魅力のある場所など条件に合うものをピックアップする力。

②課題

今後の課題は，実社会の具体的な諸課題について考える自然な場面をさらに設けていくことである。実践授業後のアンケートにおいて，「英語で新しい提案・企画を（また）してみたい

ですか」の質問に対し，「してみたい」と回答した生徒が全体の 93%となり，5 月に行った際の 76%を大きく上回った。これは，場面設定により，学習の基本となる生徒のモティベーションが大きく向上するということを意味する。そのため，ひとまとまりの単元の学習後に行うプロジェクト活動の際だけでなく，小単元においても実社会に関連のある課題設定を取り入れていく必要があると考える。また，同アンケートの「英語で表現する力が特についたと思う活動は何でしたか」の質問に対し，「パターンプラクティス教材およびその際のオリジナルスキットづくり」が 42%で最も多くを占めたことから，自由度の高い言語活動を行う際に必要となる語彙や文法事項の十分な習得が課題である。その解決に当たって，日頃から生徒のレディネスの見取りを正確に行うとともに，使用する語彙や文法に関する計画的な指導と個別的な支援が必要であると考える。

第３学年の成果と課題

①成果

３年生では，「俳句の魅力を T シャツで外国人にアピールしよう」というプロジェクトを実施した。連携した教科は，国語科・数学科・美術科である。7 月に国語科での俳句鑑賞，10 月中旬に数学科で金沢大学の留学生へのアンケート調査，10 月下旬に美術科で T シャツのデザイン作成と続き，11 月中旬に外国語科で実際に金沢大学の留学生の前で発表した。

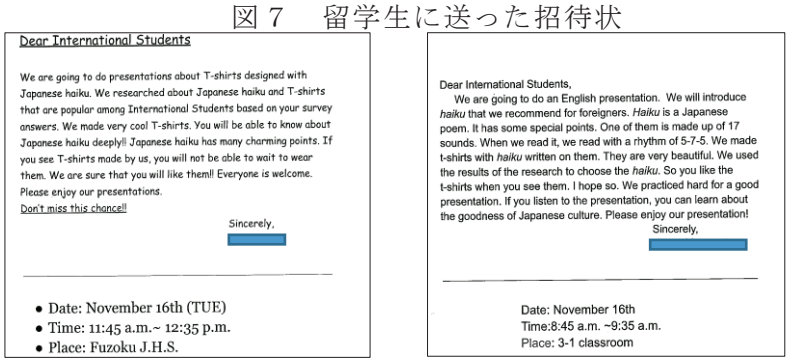
STEAM 教育を踏まえた教科等横断的プロジェクトをするにあたり，教師が特に意識した手立ては，生徒に決定権を多く与えたことである。とかく教師主導になりがちなプロジェクトを，より生徒が主体的に取り組めるようにするためである。具体的には，①留学生に紹介する俳句，②発表で活用するデータの種類，③作成する T シャツのデザイン，④留学生への発表者という４つの場面で生徒が決定できるようにした。また，一緒に発表する相手との話し合いや発表する対象（留学生）の実態を知ることを通して，自分の考えを再構築できるようにした。

国語の授業では，生徒は４人グループで１つの俳句を選んだ。それを，留学生から回収したアンケート結果を受けて発表するペアで再考して決め直してもいいこととした。国語の授業で当初に選んだ俳句を変えることに戸惑う生徒もいたが，なぜその俳句を留学生に紹介するのかという根拠を，データをもとに明確にするよう伝えたところ，多くの生徒が選び直していた。俳句を全く知らない留学生が意外にも多いことや自然や春が好きという実態をもとに，全く新しい俳句にする生徒も見られた。

数学の授業前には，留学生への質問と４つの選択肢を英語で考えた。「If you read haiku, which season do you like the best?」（俳句）「Which letter do you think is the coolest on a T-shirt? 」（T シャツ）「How often do you wear a T-shirt in summer?」（自分自身）のような質問を 20 にまとめ，金沢大学の全留学生に回答を依頼したところ，73 名からの回答があった。数値結果を基に数学の授業でレポートにまとめ，英語の授業では発表に向けてプレゼンテーションソフトを使用して準備した。作成する際には，端末のスライドを共有したり，分担して作成する姿も見られた。ほとんどの生徒が俳句や T シャツを決める際に参考にした結果をグラフ化して発表で提示した。

生徒が一人一台端末で留学生宛に書いた招待状の中から，各クラスで一番良いものを ALT に選んでもらった。来校する留学生に招待状を送信したところ，とても喜んでいた（図７）。

図７　留学生に送った招待状


Dear International Students

We are going to do presentations about T-shirts designed with Japanese haiku. We researched about Japanese haiku and T-shirts that are popular among International Students based on your survey answers. We made very cool T-shirts. You will be able to know about Japanese haiku deeply!! Japanese haiku has many charming points. If you see T-shirts made by us, you will not be able to wait to wear them. We are sure that you will like them!! Everyone is welcome. Please enjoy our presentations.
Don't miss this chance!!

Sincerely,

- Date: November 16th (TUE)
- Time: 11:45 a.m.~ 12:35 p.m.
- Place: Fuzoku J.H.S.

Dear International Students,
We are going to do an English presentation. We will introduce *haiku* that we recommend for foreigners. *Haiku* is a Japanese poem. It has some special points. One of them is made up of 17 sounds. When we read it, we read with a rhythm of 5-7-5. We made t-shirts with *haiku* written on them. They are very beautiful. We used the results of the research to choose the *haiku*. So you like the t-shirts when you see them. I hope so. We practiced hard for a good presentation. If you listen to the presentation, you can learn about the goodness of Japanese culture. Please enjoy our presentation!
Sincerely,

Date: November 16th
Time:8:45 a.m. ~9:35 a.m.
Place: 3-1 classroom

俳句には「かっこいい」というイメージはないが，T シャツには「かっこよさ」を求める留学生の声が多く，生徒たちは T シャツのデザインに工夫を凝らす必然性が生まれた（図８）。美術の授業では，T シャツの色（黒か白），デザイン（文字かイラスト），文字（日本語か英語），印刷位置（前面か背面）なども留学生からのアンケート結果を基に各自が考えた。その後，ペアでどちらのレイアウトを採用するかを話し合って決めた。T シャツのレイアウトは，企業のホームページから入稿して注文した。

図８　生徒がデザインした T シャツ

図９　実践授業の様子

生徒による発表　　留学生からの質問

発表当日，生徒は，完成した T シャツを着てペアで発表した。アンケートに答えた金沢大学の留学生のうち４名（１人はオンライン参加）が授業に参加し，発表後の即興での質問や審査もお願いした（図９）。留学生の前で発表する生徒は，前日に ALT の前で発表した生徒の中から，生徒たちによる投票で決めた。プロジェクト自体を発案したのは教師であったが，生徒が決定する場面を意図的に仕組むことにより，生徒たちは生き生きと主体的にプロジェクトに取り組んでいた。プロジェクトについて，生徒の感想の一部を表５にまとめた。

表５　プロジェクト後の生徒の感想

A　＜プロジェクト全体に関わるもの＞ ・論理的に考える力，批判的に考える力，対話する力など色々なことがこの１つのプロジェクトで学ぶことができてよかった。ペアでの話し合いの時は自分の意見をしっかり言う大切さを理解できたし，同時に相手の意見を尊重する大切さも理解できた。自分の能力向上にもつながったし，人として成長もできた良いプロジェクトだったと思った。 ・今回は複数の教科が合わさり１つの発表を作るという初めての体験だったので，すごく面白かったです。 ・データを使って英語で説明するのは今まで以上に難しく感じました。でも，自分たちでグラフを作ったり調査を基に俳句を選んだりするのは楽しく，自分の力になったと感じます。 ・好きなことがたくさんあり楽しかったです。 私はスライドなど作ることが得意なのでお互いに得意なことを分担してスムースに発表まで辿り着けてよかったです。 ・実際に T シャツになって形になるのでより前向きに，積極的にプロジェクトを進めることができました。プレゼンテーション能力も上達したのではないかなと思います。機会が有れば，留学生に発表したいです。
B　＜連携した教科に関わるもの＞ ・俳句を外国人の人たちに説明するとなったときに，自分たちも俳句について改めて学ぶことができたし，その魅力に気づくことができた。（国語科） ・日本独自の視点を英語で説明しても本当の意味はなかなか伝わらないと感じた。「わびさび」の美しさを外国人に伝えるにはどういう表現を用いればいいのか，今後も興味を持って考えていきたい。（国語科） ・プレゼンは社会に出てからよく使うし，データの取り方やその活かし方を学ぶことができた。（数学科） ・データから，最も良いものを作り上げていくことが今まで以上にできた。（数学科）

・日本の伝統文化は説明することが難しいと感じた。なので，今回使ったＴシャツのような視覚的に捉えられるものがあると説明しやすいと感じた。（美術科）
C　＜外国語科に関わるもの＞ ・今回のプロジェクトからもっと外国の方と関わりたいと思う気持ちが大きくなった。 ・即興の英語力が必要なんだなと思いました。質問をされた時は焦ったけどしっかり自分の意見を言えて良かった。２位に選ばれたのも嬉しかったです。 ・ALT 先生の質問だけでなく留学生からの質問に答えることを通して，英語を聞く力や話す力など外国人と実際に会話することの難しさ，大変さを実感することができる貴重な経験でした。 ・今まではクラス内だけで一回だけの発表だったので，２回発表するのはとても大変でした。でも，１回目の反省を活かして留学生の前で上手く発表することができたので，良かったです。 ・とても面白かった。創造デザイン科でも留学生と関わっていきたい。

同様に，プロジェクト後に，今回のプロジェクトを通して，特に身についた資質・能力について生徒に回答を求めたところ,「対話する力」が 21%と最も高かった。次いで,「論理的思考」(20%),「多様性の尊重」(14%),「実体験を通して醸成される感性」(12%),「デザイン思考」(11%）という結果だった。複数の教科にまたがるプロジェクトでは，資質・能力も複数連動しているといえるが，最後に実際にＴシャツを着て，初めて会う留学生に発表をしたことが強く印象に残ったのか，外国語科で育成したい資質・能力の２つが最も高い結果となった。外国語科に関わる「対話する力」については，留学生（ALT）からの想定外の難しい質問に対して，必死に英語で伝えたことが大きな要因だと思われる。「論理的思考」については，これまで外国語科だけで育成することは難しい資質・能力だと感じていたが，今回のプロジェクトで数学科と連携したことにより，どうすれば留学生に伝わるか，なぜその俳句やＴシャツを選んだのかを客観的なデータを基に発表することができた。これらのことは，「対話する力」と「論理的思考」が身についたかどうか，またどのような場面で身についたかを尋ねた回答（表６）からも推察することができる。

表６　生徒が身についたと感じた資質・能力とその理由

資質・能力	割合	どのような場面で身についたと思うか，またはその理由
対話する力	93%	・初めて会う留学生の前で，プレゼンをする場面 ・ALT の質問や留学生の質問に即興で答えた場面 ・留学生の質問を正確に聞き取ることができたから ・相手の反応をうかがいながら発表したり質問に答える場面 ・プレゼン中にアドリブで質問したこと ・あいさつ，案内係も当日きまったので，即興で対応する力が必要だった
論理的思考	93%	・標本調査をもとに俳句を決定する場面 ・グラフなどを用いて根拠を述べる場面 ・データを用いてより効果的な発表やデザインを作ることができた ・相手に説明していく上でどういう順番で話していったら相手が俳句について理解が深まるのかを考え，文をより良いものにできたから ・どう伝えれば留学生に伝わるかをたくさん考えたから

12 月に，４月と同様のアンケートを実施した。生徒が 2 年次の 12 月の結果も含めた比較をした（表４）。その結果，これまでにない変化が見られたのが，「英語の授業で発表する力がついた」だった。「発表する力」については，これまで「やり取りする力」と同程度の割合になることはなかった。し

かし，今回上昇した要因として，プロジェクトで，発表する相手（留学生）を明確に意識して準備ができたことがあげられる。プロジェクト後のアンケート結果からも，「発表する相手を意識できたか」という問いに，97%の生徒が「意識できた」と答え，その内 74%の生徒が，「これまで以上に意識できた」と答えた。発表当日も，留学生からの事前に想定できない質問に即答することを通して，真に英語を話す力が求められた。「発表を通して留学生に俳句の魅力を伝えられたか」という設問に対しても，92%の生徒が「伝えることができた」（その内「とても伝えることができた」：41%）と答えた。英語で発表することに自信のない生徒が学年で一定数いたが，ペアで意見交換をしながら役割を分担して発表できたことで，発表する自信につながったのではないかと推察できる。

表４　２年生（12 月）と３年生（４月・12 月）でのアンケート結果推移

質問項目	12 月（２年）	４月（３年）	12 月（３年）
①　英語の授業で学習したことは将来役に立つ	96%（75%）	96%（85%）	98%（84%）
②　英語の授業でやり取りする力がついた	97%（58%）	92%（52%）	94%（49%）
③　英語の授業で発表する力がついた		90%（43%）	**94%（46%）**
④ 英語で新しいことに挑戦したり提案･企画してみたい	73%	75%	78%

今回のプロジェクト以外に，実社会とつながりのある場面を想定したものとして，７月に「企業へのオリジナル商品の提案」を実施した。２月には「クラスの卒業文集制作」の完成も予定している。

②課題

今回のプロジェクトについて，91%もの生徒が「達成感があった」と答えた。その一方で，教師間での詳細な共通理解ができないままプロジェクトを進めたこともあり，生徒同士で話し合うための時間が授業内に十分確保できなかったことが課題として残った。生徒たちが熟慮を重ねた上で決断できていれば，さらに生徒が納得のいくより良いプロジェクトになったのではないかと思われる。教科の枠を超えてプロジェクトを遂行するためには，スケジュール上の調整以外にも，互いにどのような内容で授業をするのか，大学や企業等の関連機関との連絡調整も含めて，どの教科でどの部分までを担当するのかについての綿密な打ち合わせが不可欠であると痛感した。今回のプロジェクトを通して，教科の単元よりさらに高次の教科連携のプロジェクトからカリキュラムを俯瞰する視点を学ぶことができた。さらに今後，STEAM 教育における教科連携のプロジェクトをする際に生かしていきたい。

４．参考文献

文部科学省『Society 5.0 に向けた人材育成～社会が変わる，学びが変わる～（概要）』
（平成 30 年６月５日），第１章 Society 5.0 の社会像と求められる人材像，学びの在り方，p7

１年　単元名「Lesson 5 School Life in the U.S.A.」（NEW CROWN English Series 1）

プロジェクト名「冬休みに見てほしいオススメ映画を紹介しよう」単元計画（１５時間扱い）本時は１４時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（○）３観点【】 指導上の留意点（・）	本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力
1	1	■附属中との学校生活の違いを見つける。 ①資料映像を見て，アメリカの学校生活を知る。 ②生活面における，附属中学校との違いを捉える。	・視覚教材，教師からの補足，本文の順で難易度を上げ，情報を探せるように促す。	
	2	■写真の人物がしていることを伝える。 ①本文を音読し，現在進行形を学習する。	・文法構造と意味の理解を理解させるため，言語材料と使用場面を照らし合わせる。	
	3	■附属中との昼食の時間の過ごし方の違いを見つける。 ①資料映像を見て，アメリカの学校の昼食風景を知る。 ②昼食時間における，附属中学校との違いを捉える。	・視覚教材，教師からの補足，本文の順で難易度を上げ，情報を探せるように促す。	
	4	■ある人物の行動について尋ねたり答えたりする。 ①登場人物当てゲームを，ペアで行う。 ②附属中の昼食時間の様子について，紹介する。	・文法構造と意味を理解させるため，言語材料と使用場面を照らし合わせる。	
	5	■リサとケビンの放課後の様子を読む。 ①資料映像を見て，アメリカの中学生の放課後の過ごし方を知る。 ②本文を読み，概要を捉える。	○状況に応じて使用される言語材料を区別して理解することができる。【知】 ・視覚教材，教師からの補足，本文の順で難易度を上げ，情報を探せるように促す。	
	6	■リサのメールに返信する。 ①内容の構成を考える。 ②自分と友達の２人分の放課後の過ごし方について書く。	・本文を使用し，主語が変わった時の動詞等の変化を復習する。 ・メールの書式に気づかせる。	
	7	■日本の学校についての紹介文を読む。 ①それぞれの場面で使用されている言語材料を確認する。 ②読み手に伝えたいことを考え，トピックと情報を選ぶ。	・読み手にとって分かりやすい話の順序に気づかせる。 ・書き手の意図を予想させる。	
	8	■附属中学校生活を紹介するメールを書く。 ①読み手にとって分かりやすい話の順序を考える。 ②選んだトピックについての情報を整理し，書く。	○読み手に伝えるべき情報を整理し，場面設定に応じた言語材料を選択して書くことができる【思】	「論理的思考」
2	9	■映画の予告編を聞き，概要を聞き取る。 ①ﾌﾟﾚｲﾝｽﾄｰﾐﾝｸﾞを行い，映画に関係する語句を予想する。 ②タブレット端末を使用し，概要を捉える。	・スクリプトを活用して音読練習も行うことで，リスニング力の向上に繋げる。BONUS STAGE も行う。	
	10	■聞き手が見たくなるオススメ映画の紹介方法を考える。 ①聞き手にとって分かりやすい話の順序を考える。 ②制限時間内に収まるように材料を取捨選択する。	○聞き手に伝わる表現方法を工夫したり，伝える情報を整理したりして書くことができる。【思】	
	11	■相手に提案したり，自分の好みを伝えたりする。 ①提案する表現，好みを伝える表現を学ぶ。 ②ペアでｵﾘｼﾞﾅﾙｽﾄｰﾘｰを作成し，ﾚｺｰﾀﾞｰに録音する。	・平坦なやりとりにならないように背景を追加し，希望通りの商品を買うまでのやりとりを考えさせる。	「対話する力」
	12	■持ち主を尋ねたり答えたりする表現を学習する。 ①落とし物の持ち主を探す会話を想像して書く。	○多様な表現を用いて，日常的な情景を想像し，ｵﾘｼﾞﾅﾙｽﾄｰﾘｰを書ける。【思】	「論理的思考」
	13	■オススメ映画を紹介する(1) ①タブレット端末で画像を提示し，映画を紹介する。 ②級友からの質問に答える。	○聞き手が理解できる表現方法で話すことができる。【思】 ○発表を続けようとしている。【態】	「デザイン思考」 「対話する力」
	14 本時	■オススメ映画を紹介する(2) ①タブレット端末で画像を提示し，映画を紹介する。 ②級友からの質問に答える。 ③見たくなった映画の発表者に向けて英語でｺﾒﾝﾄを書く。	↓	「デザイン思考」 「対話する力」
	15 後日	■オススメ映画の宣伝ポスターを作成する。 ①発表した内容をまとめ，ポスターに仕上げる。	○読み手に伝わる構成を考えながら，宣伝ポスターを書くことができる。【思】	「デザイン思考」

実践事例

教科名「英語科」・学年「１年」

授業者	石川　理恵	授業日	11 月 16 日（火）	授業クラス	１年１組～４組

プロジェクト名	教科等横断を図る教科等名と内容
冬休み中に見てほしいオススメ映画を紹介しよう	国語科「話の構成を工夫しよう」 「情報を的確に聞き取る」
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力	**教科等で身に付けたい資質・能力**
「デザイン思考」 「対話する力」	聞き手が求める情報を，聞き手に伝わる英語を用いて話すことができる。 話し手から，さらに聞きたい情報を得るためにどのような英語表現が適切かを考え，英語で尋ねることができる。　【思考・判断・表現】

STEAM教育の視点

国語科の『話の構成を工夫しよう』では，聞き手にとってわかりやすい話の順序を考えたり，制限時間内に収まりように材料を取捨選択したりすることを学習している。英語科のスピーチでも，聞き手が求める情報を整理して伝えること，そして聞き手に伝わりやすい表現方法を用いることが重要であると考え，原稿作成の段階からこの学習内容を取り入れる。また，発表当日に向けて，何度も練習と訂正を重ねたり，互いにアドバイスを行ったりして，徐々に上達していけるプロセスを踏んでいく。

コロナ禍で人との関わり方に変化が生じているが，人が好むものや求めるものに変化はない。そのため，興味のあることや好きなことについて人と話すことは，実社会でもよりよい人間関係を持続的に構築していけるツールとして重要だと言える。

本時の授業のねらい

クラスメイトを対象とすることで，相手が理解できる英語表現を適切に選択することが求められる。聞き手が理解できる表現を用いて，自分の好きな映画について話すことを重点とする。

授業の流れ・活動等	時間
1　前時の復習 ・前時の復習と，本時の活動内容の確認をする。 ・発表後に相互評価を行うことを伝え，適宜メモを取っておくことを伝える。	2
課題　冬休み中に見てほしいオススメ映画を紹介しよう	
2　発表 ・各自が準備したタブレット端末の画像をスクリーンに映し出しながら，オススメの映画を紹介する。 ・話し手は聞き手の反応を確認し，聞き手とやり取りをしながら，聞き手に伝えたい情報を確実に伝えていく。	40
3　振り返り ・伝えたい情報が確実に伝わったかをペア（またはやグループ）で評価し合い，自己評価を行う。	3
4　相互評価 ・前回と今回で紹介された映画の中から，観たくなった映画を合計１０作品まで選び，英語でコメントを書き，発表者に渡す。	4
5　次時の確認 ・宣伝ポスターを作成する予定を伝える。	1

２年　単元名「Lesson 5　Things to Do in Japan」(NEW CROWN English Series 2)
プロジェクト名「オンライン旅行を計画している中学生におすすめの旅行プランを提案しよう」
単元計画（１１時間扱い）本時は９時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（〇）３観点【　】 指導上の留意点（・）	本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力
1	1	■居住地の人口や面積などについて表現し合う。 ①データを引用するための英語表現を学ぶ。（According to, The table shows...など） ②居住地の基本情報についてペアで話す。	・知識として知っていることであっても，データに基づいて話す習慣づけを行う。	
	2	■前時で表現し合った内容を広げる。 ①比較表現を用いて前時で行ったやり取りの内容を別のペアで伝え合う。 ②伝え合った内容を英文で書く。	・比較を通して居住地の魅力を表現する機会を設ける。	
	3	■国や都市の面積について書かれた教科書の対話文を読み，登場人物がこの後どんなやり取りをするかなどを伝え合う。 ①教科書の対話文を読み，登場人物のやり取りについてペアで伝え合う。 ②対話文で使われている新出語句の語の意味や比較級の構造と意味を理解する。	・前時までに学習した言語材料が実際に使われている場面に触れ，構造と意味の理解を進める。	
	4	■アンケート調査の結果について書かれた教科書の対話文を読み，登場人物がこの後どんなやり取りをするかなどを伝え合う。 ①教科書の対話文を読み，登場人物のやり取りについてペアで伝え合う。 ②対話文で使われている新出語句の意味や比較級の構造と意味を理解する。	・設定した単元の目標の達成状況と単元末での活動の見通しを持たせることで，意欲付けを図る。	
	5	■アンケートの調査結果について書かれた教科書の英文を読み，考えたことや感じたことなどを伝え合う。 ①教科書の文章を読み，内容についてペアで伝え合う。 ②文章で使われている新出語句の意味や比較表現の構造と意味を理解する。	・英文の内容を踏まえ，歓迎を受ける立場の生徒のニーズを受けてどんな活動が提案できるか考え，ペアでの対話活動で内容を深める機会を設ける。	
	6	■旅行先でしたことやその感想について書かれた教科書の英文を読み，その要点を捉える。 ①教科書の文章を読み，その概要に関する質問に答える。 ②文章で使われている新出語句の意味や比較表現の構造と意味を理解する。	・単元末の活動で使用することが予測される表現が実際に使われている場面に触れることで，表現の幅を広げる機会を設ける。	

	7	■旅行先でしたことやその感想について書かれた教科書の文章を読み，考えたことなどを伝え合う。 ①教科書の文章を読み，内容について考えたことをペアで伝え合う。 ②文章で使われている新出語句の意味や比較表現の構造と意味を理解する。	・英文の内容を踏まえ，歓迎を受ける生徒の感想からどんな活動が提案できるか考え，ペアでの対話活動で内容を深める機会を設ける。	
	8	■イベントの紹介場面設定でロールプレイをする中で，人を誘うときにに使われる表現に触れる。 ①教科書の文章を聞き，内容について考えたことをペアで伝え合う。 ②文章で使われている既習の表現の構造と意味を再確認する。	・前年度に行ったプロジェクト活動の内容を踏まえ，人を誘う場面で用いられる表現をペアでの対話活動で実際に使う機会を設ける。	
	9 本 時	■おすすめの旅行先について事実や自分の考えを整理し，スライドに企画をまとめる。 ①顧客視点で旅行先について，事実や考えをまとめる。 ②統計を用いて説得力のある企画にする。	○県外の中学生に「行ってみたい」と思ってもらえるように，おすすめの行き先について，事実や自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いて提案している。【思】	「対話する力」 「論理的思考」
	10	■さらなる対話を経て，スライドを完成する。 ①文章で使われている語彙を簡単なものにするなど，表現に工夫を凝らす。	・相手意識を持ち，伝わりやすい表現を心がけるために，既習語彙を用いる。	「対話する力」 「論理的思考」
	11	■スライドを示しつつ，プレゼンテーションを行う。 ①一人一人が級友を県外の中学生に見立てておすすめの旅行先を説明する。 ②英文の説得力や，表現の工夫に焦点を当てて発表を聞く。	○県外の中学生に「行ってみたい」と思ってもらえるように，おすすめの行き先について，事実や自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある英文で話している。【思】	
	後 日	■パフォーマンステスト ①単元テストで言語材料の習得を確認する。	○おすすめの旅行先について提案するために，学校間交流について書かれた英文を読み取る技能を身に付けている。【知】 ○おすすめの旅行先について提案するために，学校間交流について書かれた英文を読んで，その要点を捉えている。【思】	

実践事例

教科名「英語科」・学年「２年」

授業者	中橋　弘高	授業クラス	２年１組～４組

プロジェクト名	教科等横断を図る教科等名と内容
ウィズコロナ時代の中，オンライン旅行を計画している中学生におすすめの行き先を提案しよう	創造デザイン科（数学科） 「データの活用」
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力	**教科等で身に付けたい資質・能力**
「対話する力」 「論理的思考」	県外の中学生に「行ってみたい」と思ってもらえるように，おすすめの行き先について，事実や自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いて提案している。【思考・判断・表現】

STEAM教育の視点

実社会での課題解決を取り入れた学習内容として，ウィズコロナ時代のオンライン旅行を企画する活動を行う。新型肺炎の蔓延によって行動が制限される中でも，顧客のニーズを探り，サービスとして実現化する場面設定を通して，前例のない問題や未知の課題に対し，最もふさわしい方策を論理的に考えながら課題解決力を養うことができると考えた。

上記の課題に対して，数学科の標本調査の考え方から，統計的な情報を的確に活用し，その解決に向かうプロジェクトとする。

本時の授業のねらい

事実と自らの考えを，統計に基づいてまとめ，旅行者に賛同を得られるスライドを作成する。

授業の流れ・活動等	時間
１．前時までの復習 ・前単元の週末で行った，行きたい国に関するスピーチ活動について復習をする。 ・学習ゴールを確認する。 課題　石川県への旅行を計画している中学生に「行ってみたい」と思ってもらえるように，おすすめの行き先について，事実や自分の考えを整理し，簡単な語句や文を用いて提案しよう。	5
２．個人でのブレインストーミング ・本時までに案を練った候補地と県の観光統計とを照合し，おすすめの行き先を１カ所とそのセールスポイントを３点に絞る。 ・顧客視点からアイディアを練る。	15
３．対話① ・考案した企画についてペアで対話をする。 ・対話の結果，内容や表現など必要な情報があればマッピングに付け加える。	5
４．内容の再構築 ・県公式ウェブサイト中の「石川の見どころ」に関する英文を読む。観光地の見どころに注意を向けて読む。 ・読んだ英文の中から，使えそうな表現を参考にする。 ・内容や表現などの参考になる情報をマッピングに付け加える。	15
５．対話② ・再考したマッピングを基に，ペアを変えて伝え合う。 ・対話の結果，必要に応じてマッピングを修正する。	5
６．振り返り ・本時の振り返りを書く。	5

３年　単元名「Project 2」(NEW CROWN English Series 3)

プロジェクト名「俳句の魅力をＴシャツで外国人にアピールしよう」単元計画（７時間扱い）本時は６時間目

次	時	学習内容・ねらい（■） 主な活動等（丸数字）	評価規準（○）３観点【　】 指導上の留意点（・）	本校が定める Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力
1	1	■Ｔシャツプロジェクトの目的を理解する。 ①金沢大学の留学生に，俳句の魅力を英語で紹介することを伝える。 ②実際にＴシャツを注文する企業のＣＭ等についてやり取りする。 ③留学生への質問と選択肢（４択）を考える。	・生徒から出た質問を20にまとめて，金沢大学の全留学生にアンケート作成ソフトでの回答を依頼する。	
	2	■来校する留学生に，プロジェクト発表会の招待状を書く。 ①招待状の書き方例や表現を知る。 ②プロジェクトの発表会に協力してくれる留学生宛に招待状を書く。	○プロジェクトの意義や詳細を招待状で分かりやすく伝えている。【知】	
	3	■論理的な発表になるように，発表準備をする。 ①ペアで発表する英語について話し合う。 ②発表する英語について ALT からアドバイスをもらう。	○伝わりやすい構成や話し方になるよう工夫できている。【思】 ・他の教科（国語，数学，美術）に関わる内容を入れるよう伝える。	「論理的思考」
	4	■分かりやすい発表になるように発表スライドを作り，発表練習をする。 ①発表用スライドをプレゼンテーションソフトで作成する。	・事前に回収した留学生(計73名)からのアンケートの結果やグラフを活用するよう伝える。	「論理的思考」
	5	■ALT に，俳句の魅力をＴシャツで論理的に発表する。(パフォーマンステスト) ①ペアで全員が発表し，ALT からの即興の質問に答える。	○ALT にわかりやすく発表しようとしている。【態】 ・アンケート作成ソフトによる相互評価の結果を伝える。	「対話する力」 「論理的思考」
	6 本時	■金沢大学の留学生に，俳句の魅力をＴシャツで論理的に発表する。 ①司会や挨拶は生徒が行い，留学生を歓迎する気持ちを伝える。 ②留学生から発表の感想を聞き，即興での質問に答える。 ③クラスのベストを留学生に決めてもらう。	○留学生からの質問や感想を聞き取ろうとしている。【態】 ・留学生と英語でやり取りする時間を確保するめ，発表以外に司会や挨拶，案内なども生徒たちでできるよう支援する。	「対話する力」 「論理的思考」
	7	■プロジェクトの発表を映像で振り返る。 ①他クラスのベストと自分たちのＴシャツプロジェクトの発表映像を視聴する。 ②映像で気づいたことを意見交換する。	・映像を視聴することで，次回の発表への意欲につながるように声掛けする。	
	後日	ベストに選ばれたものから，留学生全員にアンケート作成ソフトで投票してもらう。	・投票により選ばれたＴシャツの写真等を掲示する。	

実践事例

教科名「英語科」・学年「３年」

授業者	田中　里美	授業クラス	３年１組～４組

プロジェクト名	教科等横断を図る教科等名と内容
俳句の魅力をTシャツで外国人にアピールしよう	国語科「外国人に紹介したい俳句の世界」 数学科「標本調査」 美術科「Tシャツ文字のデザイン」
Society5.0を主体的に生きるための資質・能力	**教科等で身に付けたい資質・能力**
「対話する力」 「論理的思考」	留学生に俳句の魅力が伝わるように，自分の言葉で整理して英語で論理的に発表できている。【思考・判断・表現】 留学生からの質問や感想を聞き取ろうとしている。【主体的に取り組む態度】

STEAM教育の視点

現実社会で，外国人が日本語のTシャツを着ているのを目にする。日本人にも，外国人にも「かっこいい(How cool)!」と思われるようなオリジナルのTシャツプロジェクトを考案した。

国語科で，留学生に紹介したい俳句をグループで選び鑑賞文を書いた。金沢大学の留学生から実際に回収した英語によるアンケート結果を基に，数学科で俳句の認知度やTシャツの嗜好等を推察し，紹介する俳句をペアで再考した後，美術科で調査を踏まえたTシャツのデザイン等を創作し，県内の企業にTシャツを注文した。英語科では，留学生の実態をアンケートで把握した上で，話す相手を意識して論理的に英語で発表する技能を育成する。

本時の授業のねらい

留学生から回収したアンケートを基に，俳句の魅力が伝わるように論理的に英語で発表する。

授業の流れ・活動等	時間
１．留学生の自己紹介 ・案内係の生徒が教室まで留学生を案内する。 ・生徒が授業の司会や歓迎のあいさつをする。 ・留学生の名前を紹介した後，留学生が順に自己紹介する。	7
２．即興対話活動（帯活動） ・ペアで２分間即興対話をする。 ・４人の生徒が留学生と対話をする。	3
３．課題の確認 課題　俳句の魅力をTシャツで論理的に留学生にアピールしよう	1
４．発表と質疑応答 ・前日の発表で，生徒による投票で選ばれたペアが発表する。 ・留学生からの感想を聞き，即興の質問に答える。	30
５．審査結果の発表と感想 ・留学生同士が相談して，一番いいと感じた発表を三つ選んでもらう。 ・司会の生徒が審査の結果を発表する。 ・留学生に全体の感想を述べてもらう。	6
６．感謝の言葉 ・生徒が英語でお礼のあいさつをする。 ・留学生を拍手で見送る。 ・案内係の生徒が控室まで案内する。	2
７．振り返り ・本時の授業を振り返り，各自カードに振り返りを書く。	1